

愛知医科大学大学院 看護学研究科特別講義

デルファイ法による 日本版バリュース ヒストリーの開発

講師：高橋 方子 先生

(千葉科学大学看護学部教授)

令和元年

11/15 金 18:00～19:30

参加費
無料

愛知医科大学看護学部棟3階N301講義室

超高齢社会・多死時代を迎えたわが国においては、患者の意思を尊重した終末期医療のあり方が問われています。2007年には厚生労働省より「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」が示され、終末期医療の意思決定は本人の意思が基本となることが示されました。さらに2018年には、将来自分が意思決定できなくなったときに備えて、自身が望む医療について事前に家族、医療従事者などと話し合いを共有するプロセス（ACP）の概念が盛り込まれ、その普及が図られています。いずれにしても、終末期医療の決定には本人の意思が欠かせないことは確かです。終末期医療に対する事前の意思表示に対する国民の関心も高く、人生の最終段階における医療に関する意識調査報告書（平成30年3月）では、66.0%の一般国民が、終末期医療に対する事前の意思表示に賛成しています。しかし、実際に書面で終末期医療に対する意思表示をしている一般国民は8.1%と低く、自分の終末期医療に対する意思表示は難しいのが現実です。

そこで、本人の意思を把握するための方策として米国で用いられているバリュースヒストリー（終末期医療の意思決定の根拠となる価値観歴）に着目しました。日本文化に即したバリュースヒストリーがあれば、終末期医療の意思決定の一助になると考え、その開発に取り組んでいます。今回はその開発過程などについてご紹介させていただきます。

申込フォームはこちら

参加
申込方法



本学ホームページから又は、右記へ
①氏名(フリガナ)②所属を明記の上、
お申込みください。
※申し込み状況により当日参加も受け付けま
すが、可能な限り事前申し込みをお願いいた
します。

お問合せ
申込先

看護学部教学課(野々・後藤)
TEL 0561-61-1827[直通]
E-mail gakumu@aichi-med-u.ac.jp